

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870501438
法人名	有限会社 芳光
事業所名	グループホームおくじま
所在地	愛媛県新居浜市北新町12番52号
自己評価作成日	平成 21年 7 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年8月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の都合に合わせた制約はなく、常に入居者さんのことを一番に考え、様々な事柄に柔軟に対応するようにしている。  
一人ひとりの生活のペースに合わせて過ごしてもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、利用者一人ひとりが、安全を確保しながらゆったりと快適に過ごせるよう支援している。運営者は町内会長の経験があり、地域への貢献を願ってホームを開設している。地域との交流や連携を図り、地域密着型サービスの役割を果たしている。また、毎日ホームで利用者や職員と夕食をとるとし、コミュニケーションを図っている。季刊発行の広報誌を家族、地域の居宅介護支援事業所やグループホームへ配布している。食事の献立は職員が担当し、専門家のチェックをうけながら高齢者が食べやすい調理方法と健康的な味付けに留意している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームおくじま
(ユニット名)	和(なごみ)
記入者(管理者)	
氏名	山内キシエ
評価完了日	平成 21年 7月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念の構築には職員全員で関わって作り日々のケアで迷った時は理念に立ち返り振り返りを行っている。</p> <p>(外部評価) 職員でよく話し合っ地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、毎月のミーティングでは日々のケアの振り返りを行い実践につなげている。当初作成の文言を見直して確認している。</p>	家族や訪問者などにもホームの理念がよく分かるよう、文字をもう少し大きくして掲示することが望ましい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に加入し老人会や保育園の行事に参加している。おくじま新聞を地域に回覧している。</p> <p>(外部評価) 自治会に入会し広報誌から情報を得て、老人会などの行事や町内の夏祭り、花見などに参加している。清掃やゴミ出し、散歩の時には近隣住民と挨拶を交わし、ホームの畑では野菜作りを手伝ってもらっている。また、保育園児と交流し高校生のボランティアも受け入れている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 看護学生の実習を受け入れ認知症ケアの実際を実習してもらっている。地域の方の介護相談を受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一度会を持ち利用者の状況などを報告し意見を聞いている。	多様な関係者に参加をしてもらい、専門的な意見を出してもらうなど、サービス向上に向けた協力を得られるよう、会議をより有効に活用されることに期待したい。
			(外部評価) 市職員、地域住民代表者、利用者と家族が参加し、隔月開催している。議題に、ホームの取り組み、利用者の生活の紹介、評価の結果などを取り上げてホームの運営に関心を持ってもらい、認知症にも理解してもらっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 何かあったときは市役所に相談、報告している。運営推進会議に参加してもらっている。	
			(外部評価) 介護課や生活保護課の担当職員とは、普段から相談や報告などでの行き来があり、スムーズな連携が図れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 何が拘束にあたるのかを職員に周知すると共に玄関を出てすぐに階段があり危険であったので出入り口を変更し鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアを理解し、実践している。2階にあるユニット入口の引き戸には鈴をつけて、職員が常に注意を払うなど、利用者の安全面に配慮しながら、玄関や居室の施錠をしない自由な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修、勉強会などで勉強し、虐待が見過ごされないよう職員間で何でも言い合えるような職場の雰囲気作りに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し情報の共有をしている。必要な時は制度の話しをし相談出来るようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は書類を交わし、疑問点がないか確認しながら説明し納得してもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族来所時は必ず声をかけ日常の様子を伝え話を聞くようにしている。  (外部評価) 重要事項説明書に苦情申立て先を明記したり、玄関に意見箱を設置している。家族の面会の時などに、職員から家族に声をかけるようにし、話しやすい雰囲気づくりを心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者とは毎日顔を合わせ、食事を共にし気軽に話が出来る。何かを決める時は必ず職員の意見を聞いている。  (外部評価) 運営者は、毎月のミーティング内容を書面で受取り、コメントを記入し返している。また、毎日、ホームで夕食をとり、職員とコミュニケーションを図る機会を設けて運営にも反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格取得が出来るよう勤務調整をし支援している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月勉強会をしており、外部の研修にも参加し、ミーティングで研修報告し情報の共有をしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会の相互評価や市内の管理者会に参加し交流している。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居までに本人とも面談し話を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居までの生活の様子をよく聞くとともに現在困っていること、ホームへ希望することなどを話し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 空き室の状況により本人、家族の思いに添えるよう他のサービス機関とも連絡をとっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活の中で一緒にすることを心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日々の暮らしの様子を伝え、家族の想いを聞き共有している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近所の方や友人、親戚の面会もあり、同じ時間が共有できるようにしている。  (外部評価) 利用者が行きつけの美容院やスーパーに出かけたり、自宅への帰宅、近隣の知人・友人等の家を訪問するなど、これまでの関係を継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員を交え一緒に外出したり洗濯物を片付けたり皆で過ごせるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居時は、今後の生活に不安がないよう他の事業所と連絡をとり援助している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段の生活や話の中から本人の気持ちを汲み取ったり家族からも話を聞き本人の意向を大切にしている。  (外部評価) 日々のいろいろな場面での表情や言葉から一人ひとりの思いや意向を把握し、本人にとってどのように暮らすことが最良なのかを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に家族や担当のケアマネとも連絡をとり、生活歴やサービスの利用状況を聞いている。入居後も生活歴の把握に努め情報を共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活ペースや出来る事などの把握に努めている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 本人や家族の希望を踏まえ職員間で話し合い本人本位 の計画作成を心がけ家族に確認してもらっている。	
			(外部評価) 相談受付票などから、利用者主体の暮らしを反映した 基本介護計画書を作成し、関係者で評価、確認、話し 合いをしている。3か月ごとに見直しているが、利用者 の心身の変化に応じて随時見直しを行い、新たな介護 計画を作成し、家族からの意見も反映するようにして いる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 日々の様子や本人の言葉を記録して情報を共有してい る。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ家族、本人と相談し職員と買い物に出かけ たり、1階のデイサービスの演奏会に参加したりしてい る。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 民生委員の方に運営推進会議の委員になってもらって おりグループホームへの理解、協力をしてもらってい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居までの主治医に診てもらっており、入居中の様子 を情報提供している。	
			(外部評価) 利用者全員が入居前からのかかりつけ医を主治医と しており、家族が同行して受診している。受診状況を管 理日誌に詳細に記録して、主治医との連携を図ってい る。緊急時には、協力医療機関が24時間体制で対応 するなど、適切な医療を受けられるよう支援してい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師が常勤しており常に相談しながら健康管理して いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は介護要約を情報提供し医療連携室とも連絡を 取り合い相談している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に説明し、重度化が予測される場合早めに家 族、主治医と相談し本人及び家族の要望を聞くように している。	
			(外部評価) 入居時に、重度化や終末期に向けたホームの方針を、 重要事項説明書で家族に説明し、話し合っている。利 用者の状態に応じて家族と話し合い、確認書及び同意 書を作成している。ホームは関係者と方針を共有し、 協力して支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急車の依頼や応急処置はマニュアルを作成し、日ごろから勉強会で話し合い、確認している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し年2回利用者とともに避難訓練している。地域の方には運営推進会議で協力をお願いしている。  (外部評価) 業者に依頼して、年2回、夜間想定を含めた防火避難訓練を行い、避難経路及び避難場所を確認している。緊急警報装置を設置し、緊急連絡網も作成しており、近隣の住民にも協力してもらえる。食糧や飲料水などを備蓄し、薬やコンロなどを準備している。	近隣住民にも避難訓練に参加してもらえるよう、さらに働きかけをすることに期待したい。また、訓練の結果を記録し、話し合いを行い、より一層、実践的な対応ができるよう技術や知識を身につけて欲しい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの想いを大切に、排泄の声かけなどは他の入居の方にも配慮しさりげなくしている。  (外部評価) 一人ひとりの人格を尊重した声かけやさりげないケアに配慮している。また、広報誌に写真を掲載する場合も家族の同意を得るなど、個人情報の保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人ひとりに合わせた声かけをし、本人の希望がわかるような場面作りを心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の決まり事はなく、本人のペースに合わせて散歩したり居室で休んだりして過ごしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の好む服装をし、化粧やおしゃれをしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居時に嗜好調査をし、献立を配慮している。準備や片付けなど出来ることを手伝ってもらい一緒に食事している。	
			(外部評価) 入居時の嗜好調査から、献立に利用者一人ひとりの好みを取り入れ、苦手な素材は調理で工夫をしている。利用者には、下ごしらえや配膳、食後のかたづけなど、無理のないよう配慮しながら、職員と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量は毎回確認し食欲のない時は好きな物や食べやすい物などに変更して食事出来るように工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後は洗面所で歯磨きしたり、歩行が難しい方はフロアの洗面台を使ったりして清潔に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 言葉でのコミュニケーションが取れない方など表情や様子から伺いトイレに誘導している。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄のパターンや習慣を介護記録に記録するなどして、全職員が情報を把握し、本人の仕草や表情から敏感に察知して、排泄の自立に向けたさりげない支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分に留意すると共に繊維質を摂ってもらうためポカリ寒天を作り便秘予防している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望を聞いて尊重している。準備から入浴後のお茶まで一人の職員で対応している。	
			(外部評価) 入浴が苦手な利用者には、気分転換を図りながら入浴が楽しめるよう支援している。個々の状況も記録している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その人のペースで過ごしてもらっている。昼夜逆転のないように声かけや日中の活動をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効能や副作用を個別、または一覧表でわかるようにしている。薬の変更時は日誌に記録して情報共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物の片付けや食事の片付けなど出来ること、したいことを職員と一緒にしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族と外出などしているが本人の希望に合わせて買い物に外出したり場合によって自宅までドライブし自宅近所の方と交流したりしている。  (外部評価) 図書館やスーパーに行ったり、畑の収穫など、一人ひとりの希望に添って外出を支援している。ホームの年間行事として桜、菖蒲、紫陽花など季節毎の花見に車で出かけたたり、夏祭りや老人会の花見など地域の行事にも参加し、積極的に外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族と相談し自分でお金を持っている方もいる。預かっている方は希望時一緒に買い物に行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時に電話を掛けている。遠くの子供さんと電話で話しをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 置物や花など季節を感じられるようにし、家庭的な雰囲気作りを心がけている。</p> <p>(外部評価) 居間は一面がガラス窓で明るく、日差しの調節や室内温度のチェックもこまめに行っている。また、台所からは調理の音や香りがし、畳のコーナーも設けられて利用者がくつろげる空間になっている。廊下も広く、利用者はゆったりと行き来できる。トイレや浴室も清潔である。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) フロアにはソファを置き、畳コーナーもあり好きな場所で過ごしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時に寝具、たんす、写真など本人が今まで使っていた馴染みの物を持って来てもらっている。</p> <p>(外部評価) テレビ、タンス、縫いぐるみなど、使い慣れた物や好みの物が持ち込まれ、一人ひとりがその人らしく居心地よく過ごせる配慮がなされている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 廊下には手すりがあり安全に歩けるようにしている。玄関を出てすぐ階段で危なかったので出入口を反対にした。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870501438
法人名	有限会社 芳光
事業所名	グループホームおくじま
所在地	愛媛県新居浜市北新町12番52号
自己評価作成日	平成 21 年 7 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年8月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安全に健康に生活出来るよう内服管理や転倒には充分注意している。  
一人ひとりの思いを大切に柔軟な対応を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、利用者一人ひとりが、安全を確保しながらゆったりと快適に過ごせるよう支援している。運営者は町内会長の経験があり、地域への貢献を願ってホームを開設している。地域との交流や連携を図り、地域密着型サービスの役割を果たしている。また、毎日ホームで利用者や職員と夕食をともにし、コミュニケーションを図っている。季刊発行の広報誌を家族、地域の居宅介護支援事業所やグループホームへ配布している。食事の献立は職員が担当し、専門家のチェックをうけながら高齢者が食べやすい調理方法と健康的な味付けに留意している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームおくじま

(ユニット名) 雅(みやび)

記入者(管理者)

氏名 神野 栄子 (山内キシエ)

評価完了日 平成 21 年 7 月 15 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念にあるように地域の中で信頼されることを目指し笑顔でゆったりとした生活を心がけている。	
			(外部評価) 職員でよく話し合っ地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、毎月のミーティングでは日々のケアの振り返りを行い実践につなげている。当初作成の文言を見直して確認している。	家族や訪問者などにもホームの理念がよく分かるよう、文字をもう少し大きくして掲示することが望ましい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入し老人会に参加している。催しものがある時は近所の方にも声をかけている。	
			(外部評価) 自治会に入会し広報誌から情報を得て、老人会などの行事や町内の夏祭り、花見などに参加している。清掃やゴミ出し、散歩の時には近隣住民と挨拶を交わし、ホームの畑では野菜作りを手伝ってもらっている。また、保育園児と交流し高校生のボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方の介護相談を受けたり、地元の看護学生の実習を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一度運営推進会議を行い入居者の様子を報告している。委員の方は入居者に気軽に話しかけてくださっている。	
			(外部評価) 市職員、地域住民代表者、利用者と家族が参加し、隔月開催している。議題に、ホームの取り組み、利用者の生活の紹介、評価の結果などを取り上げてホームの運営に関心を持ってもらい、認知症にも理解してもらっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ連絡を取り相談、確認をしている。運営推進会議に参加してもらっている。	
			(外部評価) 介護課や生活保護課の担当職員とは、普段から相談や報告などでの行き来があり、スムーズな連携が図れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員間で声を掛け合い、見守りを重視して拘束しないケアを心がけている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアを理解し、実践している。2階にあるユニット入口の引き戸には鈴をつけて、職員が常に注意を払うなど、利用者の安全面に配慮しながら、玄関や居室の施錠をしない自由な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加、報告し職員全体で防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し、対象者がいる時は説明、相談出来るようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前に説明し、契約時にも重ねて説明し納得してもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 本人や家族の希望は申し送りやミーティングで話し合っている。苦情についてはよく聞くことを心がけ職員間で情報の共有をしている。  (外部評価) 重要事項説明書に苦情申立て先を明記したり、玄関に意見箱を設置している。家族の面会の時などに、職員から家族に声をかけるようにし、話しやすい雰囲気づくりを心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者は職員に定期的に意向調査をし意見や提案を聞いている。何かを決める時は職員の意見を聞いている。  (外部評価) 運営者は、毎月のミーティング内容を書面で受取り、コメントを記入し返している。また、毎日、ホームで夕食をとり、職員とコミュニケーションを図る機会を設けて運営にも反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の努力や勤務状況の把握に努め、希望する研修に参加出来るよう勤務調整している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 段階に応じて研修に参加している。研修後は報告会をし情報を共有している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会に加入し県内の研修や相互評価研修に参加している。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に本人と面談し、本人の様子や言葉を手がかりに不安が軽減できるよう関わっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に今困っていることをよく聞き対応している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 介護保険に戸惑っている方には状況に応じ介護相談をしたり居宅支援事業所を紹介している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で、生活の知恵や季節の行事や旬のものなどを教えてもらっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 在宅での生活習慣を聞いたり、日ごろの生活の様子を伝えながら家族と共に本人との関係作りをしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 自宅の近所の方や遠方の兄弟の方などが訪問してくださっている。	
			(外部評価) 利用者が行きつけの美容院やスーパーに出かけたり、自宅への帰宅、近隣の知人・友人等の家を訪問するなど、これまでの関係を継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 毎日のお茶や食事を職員も一緒にし話題を提供したりして良い関係作りを心がけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 新しい環境でも今までの生活が継続出来るように他の事業所に情報提供している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で本人の言葉や様子から何をしたいのか把握するように努めている。	
			(外部評価) 日々のいろいろな場面での表情や言葉から一人ひとりの思いや意向を把握し、本人にとってどのように暮らすことが最良なのかを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴を本人や家族と話す中から把握し本人らしさを発見できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の暮らしを共にすることで生活リズムを知りその方の生活リズムに合わせて声かけしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族や主治医とも相談しながら、ミーティングで介護計画やケアについて話し合いをしている。	
			(外部評価) 相談受付票などから、利用者主体の暮らしを反映した基本介護計画書を作成し、関係者で評価、確認、話し合いをしている。3か月ごとに見直しているが、利用者の心身の変化に応じて随時見直しを行い、新たな介護計画を作成し、家族からの意見も反映するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日常の様子や職員の気づきなどを毎日記録し情報の共有をしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) デイサービスの音楽会や催しに参加させてもらっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に民生委員さんが参加してくださっており地域の情報を教えていただいたり、グループホームの活動に協力してくださっている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居前からの主治医に受診してもらっている。受診時 日常の様子を情報提供している。	
			(外部評価) 利用者全員が入居前からのかかりつけ医を主治医と しており、家族が同行して受診している。受診状況を管 理日誌に詳細に記録して、主治医との連携を図ってい る。緊急時には、協力医療機関が24時間体制で対応 するなど、適切な医療を受けられるよう支援してい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師が常勤しており利用者、職員共にいつでも相談 連絡が出来る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時に医療機関に情報提供し、退院に向けても医療 連携室と連絡を取り合っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時にホームでの対応について説明している。重度 化に向けては早い時期から相談を重ね意志確認をして いる。	
			(外部評価) 入居時に、重度化や終末期に向けたホームの方針を、 重要事項説明書で家族に説明し、話し合っている。利 用者の状態に応じて家族と話し合い、確認書及び同意 書を作成している。ホームは関係者と方針を共有し、 協力して支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急対応のマニュアルを作っており、救急手当てなどは勉強会で復習している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時のマニュアルを作っており、避難訓練を実施している。地域の方には運営推進会議で協力をお願いしている。  (外部評価) 業者に依頼して、年2回、夜間想定を含めた防火避難訓練を行い、避難経路及び避難場所を確認している。緊急警報装置を設置し、緊急連絡網も作成しており、近隣の住民にも協力してもらえる。食糧や飲料水などを備蓄し、薬やコンロなどを準備している。	近隣住民にも避難訓練に参加してもらえるよう、さらに働きかけをすることに期待したい。また、訓練の結果を記録し、話し合いを行い、より一層、実践的な対応ができるよう技術や知識を身につけて欲しい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 普段から言葉遣いには注意し、折に触れてミーティングなどで話し合い確認している。  (外部評価) 一人ひとりの人格を尊重した声かけやさりげないケアに配慮している。また、広報誌に写真を掲載する場合も家族の同意を得るなど、個人情報の保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の言葉や様子の奥にある思いに気配りしながら日常のケアをしている。本人が意思決定出来るように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 理念にあるように一人ひとりを尊重しゆったりとした笑顔のある暮らしが出来るように心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎日お化粧をしたり、その日の服装も自分の好みで決めている。必要以上に重ね着しているときはさりげなく声かけしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居時に嗜好を本人、家族に聞き献立に配慮している。出来るときは一緒に準備や片付けを手伝ってもらっている。  (外部評価) 入居時の嗜好調査から、献立に利用者一人ひとりの好みを取り入れ、苦手な素材は調理で工夫をしている。利用者には、下ごしらえや配膳、食後のかたづけなど、無理のないよう配慮しながら、職員と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量は毎食個々に確認し、体調に合わせて献立を変更したり、食べやすい工夫をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後声かけをし、個々に合わせた援助をしている。嫌がる方には声かけのタイミングを考えたり、職員が変わって声かけしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) さりげない声かけや誘導を心がけている。一人ひとりの状況に合わせて夜間のみ紙パンツを使用したり、少しの失敗にはシートを使用したりしている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄のパターンや習慣を介護記録に記録するなどして、全職員が情報を把握し、本人の仕草や表情から敏感に察知して、排泄の自立に向けたさりげない支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の方には乳製品を食べてもらったり、水分摂取と食物繊維をとるためにポカリ寒天を食べてもらっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望に合わせて入浴してもらっている。血圧などの体調に合わせて随時配慮している。	
			(外部評価) 入浴が苦手な利用者には、気分転換を図りながら入浴が楽しめるよう支援している。個々の状況も記録している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中居室で過ごす時間が多い方にはフロアにお誘いしたり、夜間眠れない時は一緒に話したりしてタイミングをみて声かけしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) たくさん内服している方が多く、薬の内容や作用などを一覧にしてわかりやすくしている。薬変更時は管理日誌で申し送りしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 季節行事を楽しんだりや老人会の行事に参加している。日々の暮らしで食事の片付けや洗濯を一緒にしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 気候の良い時は、買い物や散歩を楽しんでいる。職員の庭の花見物に出かけたりして外出の機会が多くもてるように心がけている。  (外部評価) 図書館やスーパーに行ったり、畑の収穫など、一人ひとりの希望に添って外出を支援している。ホームの年間行事として桜、菖蒲、紫陽花など季節毎の花見に車で出かけたり、夏祭りや老人会の花見など地域の行事にも参加し、積極的に外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人と家族の希望に合わせ様々な管理をしている。自分で持っている方でも不安な時は一時的に預かったりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 夕方になると不安な方もおられ家族に電話したりしている。家族も快く対応してくださっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 室温、湿度には注意し随時チェックしている。季節の花をかかさず生けており入居の方も楽しみにしている。</p> <p>(外部評価) 居間は一面がガラス窓で明るく、日差しの調節や室内温度のチェックもこまめに行っている。また、台所からは調理の音や香りがし、畳のコーナーも設けられて利用者がくつろげる空間になっている。廊下も広く、利用者はゆったりと行き来できる。トイレや浴室も清潔である。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) フロアにはソファを置いたり畳コーナーがある。仲良しの方同士、それぞれの部屋で話し込んだりされている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ダンスやドレッサーなど思い思いの馴染みの物や写真を持って生活されている。</p> <p>(外部評価) テレビ、ダンス、縫いぐるみなど、使い慣れた物や好みの物が持ち込まれ、一人ひとりがその人らしく居心地よく過ごせる配慮がなされている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 異食のある方にも物の置く場所を考慮したり、個々の状況に合わせて柔軟に対応している。</p>	